

本物のアーユルヴェーダを都会の一等地で提供  
ExSerendib Ayurveda Care & Therapy 渡辺 泰眞氏

### ■プロフィール

2010年にスリランカ野球代表監督就任。帰国後、慶大大学院修了。2015年、現地法人ExSerendib WorKsを設立。豊富な現地経験と堪能なシンハラ語で得た信頼をベースに、サービス提供を行う。2016年6月コロンボで本格的なアーユルヴェーダを提供するExSerendib Ayurveda Cure & Therapyを設立。トリップアドバイザーでスパ&ウェルネス@コロンボ部門で1位を獲得するなど好評を得ている。

—————

各国大使館や歴史ある邸宅が並ぶ一等地コロンボ7に、本物（Genuine）のアーユルヴェーダを掲げたサロンがある。オープンして間もないが、トリップアドバイザーなどの口コミ評価が非常に高い。今回はこのサロンの経営者である渡辺 泰眞氏に話を聞いた。

### ■スリランカに来たきっかけは？

日本ではスポーツ雑誌のライターとして会社員をしながら野球指導を7年間続けていました。ある日、たまたま受け取ったJICAの青年協力隊員のチラシを見ると、野球代表監督という募集がありました。これは滅多にないチャンスと応募したのがスリランカに来たきっかけです。

### ■元々、海外での起業を考えていたのですか？

いいえ、一般家庭に育ち、起業など全く考えていませんでした。スリランカ野球代表監督として3年の任期を終えた後、もっと違った関わり方ができるのではないかと思い、慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科に進学し、スリランカに関する研究を行っていました。卒業後はまたどこかに勤めるつもりでいましたが、大学院には色々な経験を持った方々がいて、現地語であるシンハラ語を使えて、現地の人脈もあり、その専門性を活かさないともったいないと背中を押す人たちがいて、チャレンジしてみてもいいかなと思い、起業するに至りました。

### ■なぜ、アーユルヴェーダサロンだったのでしょうか？

スリランカ伝統医療の本格的なアーユルヴェーダが最大都市のコロンボでは体験できる場所がないことに着目しました。地方に行けばロングステイのアーユルヴェーダ施設があります。ただ、日本人のように長期休みを取りづらい人や世界遺産なども見たい人、出張で来られた人には難しい。一方でコロンボにあるのは高級ホテルに入っているスパか、ローカルの性風俗紛いのお店ばかり。しっかりとしたドクターの診断を受けられ、施術後の日常生活にもアーユルヴェーダの考え方を活かしてもらえるような本物のアーユルヴェーダサロンをコロンボで作ることにしました。

### ■どのように事業を立ち上げてきたのでしょうか。

まずは信頼できるドクターを探しました。そのドクターと基本的なサロンのコンセプトを具体化していきました。そして、コロombo 7 という立地にもこだわりました。怪しいお店ではないことがお客様にも従業員にもわかりやすく伝わります。

■オリジナルの診断書が特徴的です。

はい、アーユルヴェーダではその人の体質と現状を把握し、治療方針を決めるのに、トリドーシャを診察します。この結果をわかりやすくお伝えし、かつ、旅行の記念品としてお持ち帰りいただけるようにオリジナルの診断書をお一人お一人に作成しています。体質に合わせて施術で使うオイルも決めますが、どのオイルを使ったのかもご紹介しています。その他、食事や習慣などその人にとって良いもの、避けるべきものもご紹介し、施術後の生活にもアーユルヴェーダの考え方を活かしていただけるように情報提供をしています。施術で使ったオイルの販売もし、帰国後もご自分でケアできるようにしています。

■日本語での対応にも安心感があります。

当サロンには日本語ができるスタッフが常駐しています。ドクターの問診は英語で行われるのが一般的ですが、問診票は日本語と英語を併記しています。ご希望により日本語スタッフが立ち会うことも可能です。英語に自信がない方でもドクターとしっかり意思疎通できるように配慮しております。

■仕事のやりがいは何でしょうか。

色んな方と出会うことができることです。日本はもちろん、ヨーロッパや中東などからもお客様がいらっしゃいます。スリランカにお越しになる前に事前にお電話やメールで、お悩みの症状についてご相談を受けることもあります。この事業を始めるまでは、こんなに色んな国の方とお話をする事になるとは思ってもいませんでした。

■今後の目標を教えてください。

世界中の人がここを目指してきてくれる、そんな場所にしていきたいと思えます。日本流のマネジメントや顧客対応など日本の良いところと、スリランカの伝統、風土をハイブリットさせたこれまでにないGenuine (本物) な場所を作り上げていきたいと思えます。